

いちのみやの産業

Industry of Ichinomiya





市長 中野 正康

ごあいさつ

一宮市は日本のほぼ中央で、愛知県の西北部、名古屋市と岐阜市の中間に位置し、木曽の清流と温和な気候、風土に恵まれ、古くから尾張地方の経済の中心として栄え、繊維産業の発展に大きく貢献してきました。

一宮の織物の歴史は古く、すでに平安時代（8～12世紀）に錦綾を産したと伝えられ、江戸時代（17～19世紀）には結城縞、寛大寺縞などの縞木綿や絹織物の生産地として広く知られていました。

明治以降は織物生産も逐次工業化され、洋服地を中心とした毛織物工業へと急速な発展をとげ、現在では、各種素材の織物をはじめ相互関連する紡績、撚糸、染色、整理から縫製までを一貫生産する総合繊維産業都市として世界に知られるようになりました。

さらに、一宮地場産業ファッションデザインセンターを拠点に、人材の育成、トレンド情報の提供、新商品の開発等を図るとともに、ジャパン・テキスタイル・コンテストの開催などを通して、ファッション事業や地域おこし事業等も積極的に展開しています。

また、観光では織物と縁の深い牽牛・織女に因んだ「一宮七夕まつり」や、尾張地方随一の直径500mの大輪を咲かす2尺玉を打ち上げる「濃尾大花火」などのイベントを開催し、観光客の誘致を図っています。

本市は、名神高速道路と東海北陸自動車道を結ぶ一宮ジャンクションと4つのインターチェンジを有しているほか、一宮インターチェンジで名古屋高速16号一宮線と接続しており、日本の大動脈である高速道路網の結節点として、重要な位置を占めています。市北部から西部へと約18kmにわたって接する木曽川がはぐくんだ豊かな自然や、これまでに蓄積された歴史・文化を礎に、安心・元気・協働の基本理念のもと、「木曽の清流に映え、心ふれあう躍動都市 一宮」を将来像としたまちづくりを目指しています。

一宮市の概要

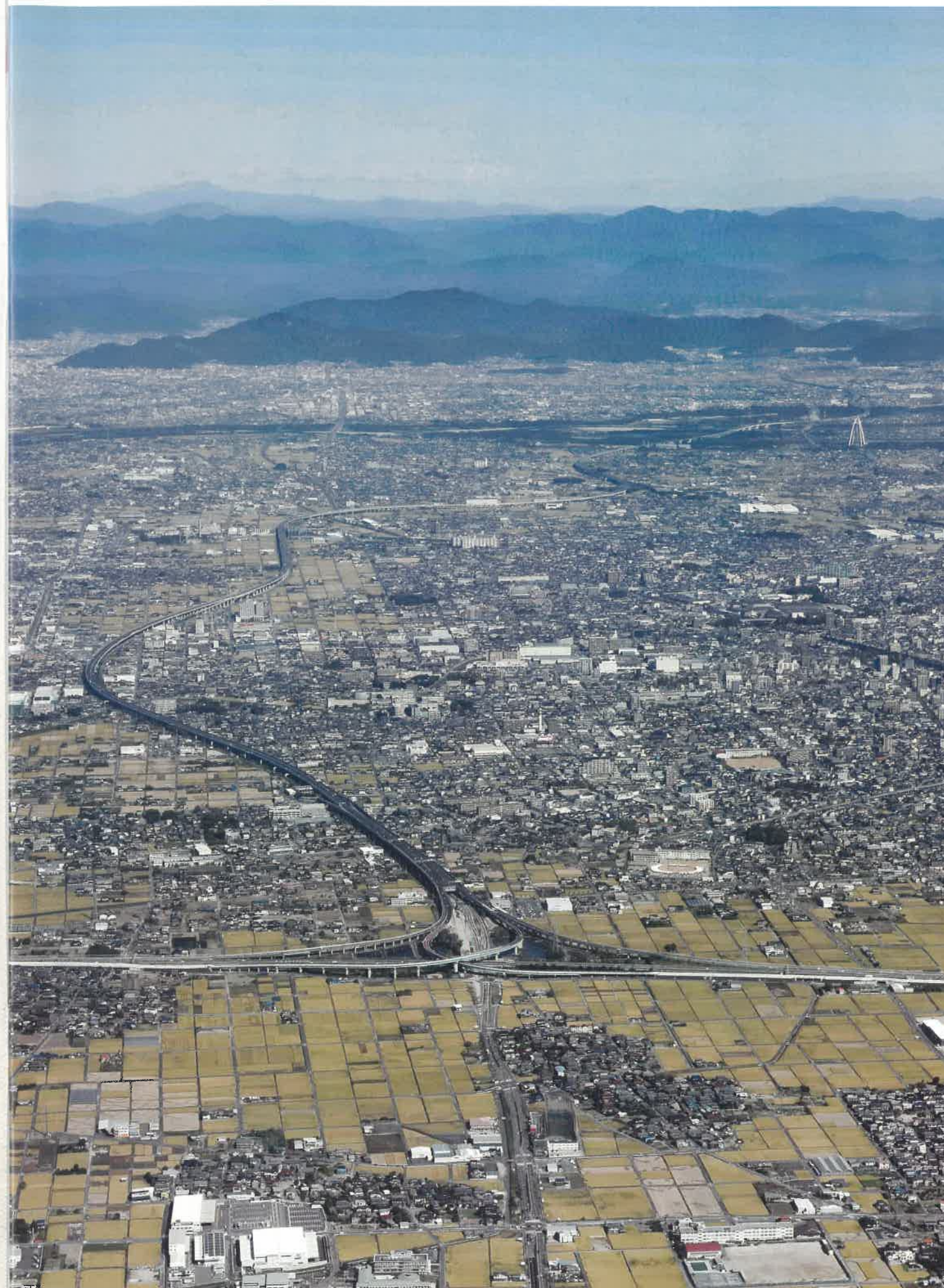
北緯／35度18分
35°18' north latitude

東経／136度48分
136°48' east longitude

面積／113.82km²
113.82km² Area

人口／386,294人
386,294 Population

※平成28年2月1日現在
As of Feb.1,2016



本市は古来より、真清田神社の門前町として繁栄してきたまちで、一宮の地名は、この真清田神社が平安時代に尾張の国の「一の宮」となってから呼びならされてきたものです。こうした歴史と伝統を背景に、産業も綿織物、毛織物から今日の総合繊維産業都市へと地歩を固め、さらに、先端技術産業などの誘致を図り、産業の複合化を推進し、未来への飛躍を目指しています。

また、JR尾張一宮駅に隣接する複合施設「i-ビル」が平成24年11月にオープンし、一宮市の新たな玄関口として、鉄道・バスなどの交通結節点としての利便性を生かし、市中心地に人の賑わいを創出していきます。



●尾張一宮駅前ビル（愛称：i-ビル）

商業 Commerce

18世紀に三と八のつく日に開かれる三八市が真清田神社の門前で始まり、尾張を代表する商業地として今日まで発展を続けてきました。その発展を支えた市内各地の商店街や発展会は、季節のイベントや共同事業を開催するなど、地域活動の中心的な役割を担っています。しかし、近年は、郊外型大規模小売店舗等の商圈に取り込まれ、本市の商業を取り巻く環境は大変厳しくなっています。尾張西部の中核都市にふさわしい魅力ある商業機能が集積した活気あるまちづくりが重要なテーマとなっています。



●本町商店街
総延長約500mにおよぶこの商店街は、7月の「おりもの感謝祭一宮七夕まつり」の頃には、買い物客や観光客などで一段と賑わいます。

一宮市の商業の推移（事業所数・従業者数・年間商品販売額）

調査年	総計			卸売業		小売業		
	事業所数	従業者数	年間商品販売額(百万円)	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数	売場面積(㎡)
昭和54年	4,804	22,438	565,770	1,093	8,050	3,711	14,388	253,994
平成 3年	5,344	29,276	1,300,265	1,573	11,782	3,771	17,494	298,411
平成11年	4,643	31,313	1,014,454	1,203	9,379	3,440	21,934	377,607
平成19年	3,642	27,465	898,831	857	6,918	2,785	20,547	412,494
平成26年	2,543	19,688	808,723	644	4,728	1,899	14,960	333,119

商業と地域の融合としての“まつり”

商業団体と地元住民、市民団体との連携により「鯉のぼりフェスティバル」「おいち祭り」等、季節を彩るイベントが各地域で開催され、地域を代表する“まつり”として市民に親しまれています。



●鯉のぼりフェスティバル



●おいち祭り

工業 Manufacturing industries



●一宮萩原地区工業団地
萩原地区工業団地では、平成11年3月より進出企業の5社すべてが操業を開始しました。

一宮市の工業の推移（事業所数・従業者数・年間製造品出荷額等）

調査年	事業所数	従業者数	年間製造品出荷額等(百万円)
平成20年	1,105	24,190	574,669
平成21年	973	21,668	413,058
平成22年	926	20,751	406,807
平成24年	884	20,726	466,245
平成25年	851	21,034	460,843

※平成23年については、工業統計調査が中止されています

※各年の条件を同一とするため従業者4人以上のデータでの比較

産業分類別 事業所数・従業者数（平成25年）

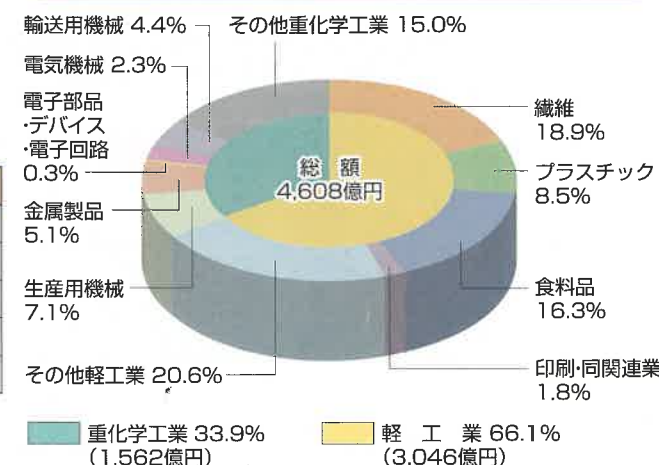
産業分類	事業所数	従業者数	産業分類	事業所数	従業者数
食品製造業	58	4,910	窯業・土石製品製造業	6	154
飲料・飼料製造業	1	7	鉄鋼業	10	165
繊維工業	288	5,163	非鉄金属製造業	8	228
木材・木製品製造業	9	123	金属製品製造業	72	1,430
家具・装備品製造業	18	140	はん用機械器具製造業	22	404
パルプ・紙・紙加工品製造業	13	218	生産用機械器具製造業	80	1,308
印刷・同関連業	41	582	業務用機械器具製造業	17	837
化学工業	7	154	電子部品・デバイス・電子回路製造業	5	55
石油製品・石炭製品製造業	1	34	電気機械器具製造業	32	647
プラスチック製品製造業	92	2,176	情報通信機械器具製造業	1	4
ゴム製品製造業	12	431	輸送用機械器具製造業	40	954
なめし革・同製品・毛皮製造業	2	9	その他の製造業	16	901
総数			総数		
851			21,034		

※事業所数、従業者数の数値は従業者4人以上の事業所のみ合計

平成25年工業統計調査（H28.2公表）では、事業所数・従業員数・製造品出荷額等ともに地場産業である繊維工業が首位となっており、次いで食品製造業、プラスチック製品製造業などとなっています。

現在、一宮市は交通利便性の高い立地条件を生かし、先端技術産業などの誘致を図り、産業の複合化を目指しています。

製造品出荷額等（平成25年）



食品 Foods



●食品生産工場

一般機械 General machinery



●アミューズメント機器関連部品の生産工場

一宮市を中心として尾張西部地域は古くから絹織物や綿織物の技術、明治以降の毛織物を中心とした近代技術等が蓄積され、「紡績から縫製」、「アパレル(衣服)からインテリア」に至るあらゆる関連業種が集積し、各業種がそれぞれ技術やファッション性の高いポテンシャルを持ちながら有機的に活動し、あらゆるニーズにフレキシブルに応える体制を構築しています。



●一宮市で開催される「ジャパン・ヤーン・フェア&総合展『THE 尾州』」は、ビジネス・一般を問わず全国から多くの来場者が訪れています。

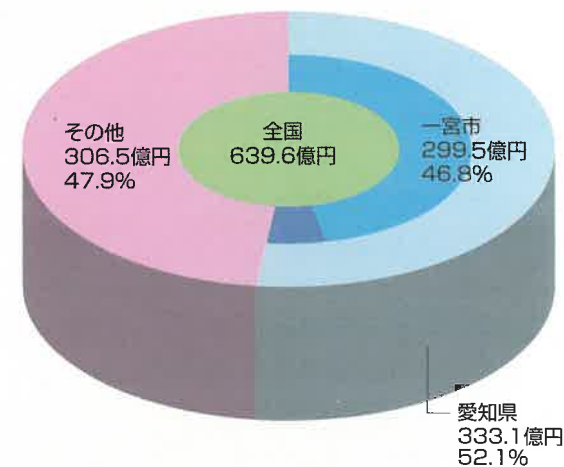
繊維産業 The textile industry

本市は、木曽川の豊かな水と肥沃な濃尾平野の恩恵を受け、古くから産業が発展してきました。

尾州産地の歴史は古く、奈良時代には、絹・麻織物の産地として栄えたことが延喜式などの文献に記されています。江戸時代に入ると、綿花の栽培とともに綿織物が生産され、全国有数の産地となっています。麻、絹、綿と素材の移り変わりとともに発展し、その蓄積された技術と知恵を有する尾州産地は、明治中期にはいち早く毛織物に着目し、工業化に成功しました。その後、生活の洋風化とともに急速な発展を遂げ、昭和の初めには「毛織物王国」として全国に知れ渡りました。

現在では、織物業をはじめ、紡績、撚糸、染色整理、織物修整業、縫製などが集積する、わが国最大の総合テキスタイル産地を形成し、国内の毛織物製造出荷額等のほぼ半分のシェアがあります。

毛織物製造出荷額等(平成25年)



地場産業を支援する、尾州の交流拠点



●FDC外観

一宮地場産業ファッションデザインセンター(以下FDC)は、尾張西部地域の地場産業の振興を図るため、国、愛知県、関係市町村、業界団体の支援のもと、昭和59年に一宮市に設置されました。建物は、あいち産業科学技術総合センター尾張繊維技術センターに隣接しており、主に繊維産業を技術と情報の両面から支援する交流拠点となっています。FDCは、開設以来、新商品開発、人材育成などの振興事業、とりわけファッション情報の収集・提供事業を中心に取り組んでいます。

テキスタイル(織物)ができるまでの工程

私たちが何気なく身に着けているファッションも、それが誕生するまでには大変な手間と時間を要します。

そこで、毛織物の原料であるウールが織物として完成されるまでの工程を紹介します。

テキスタイル企画

商品企画は1年以上前から行い、マーケット・ファッション情報や新技術の情報などを総合的に分析し、新商品のコンセプトを決め、柄見本を作成する。

原料

●羊毛(ウール)は、オーストラリア、中国が主要な供給国である。ウールは「暖かい」、「吸湿性がある」、「汚れにくい」など優れた性質がある。

●羊毛に含まれる脂や土砂などを洗い落とした原毛を、ほぐしながら長い線をつくり、最後に撚りをかけつつ引き伸ばして細い糸ができる。



▲紡績工場

紡績

撚糸

●紡績工程で、できあがった糸を、そのまま単糸として使用するか、2本撚り合わせて双糸にする。

染色



●染めは、糸の段階で染める「先染め」と、織り上がった生地を主に無地に染める「後染め」がある。



Textile Production Process

織



▲毛織物工場

●毛織物には、細くて強い梳毛(そもう)糸を用いた梳毛織物と、太くてふんわりした紡毛(ぼうもう)糸を用いた紡毛織物がある。

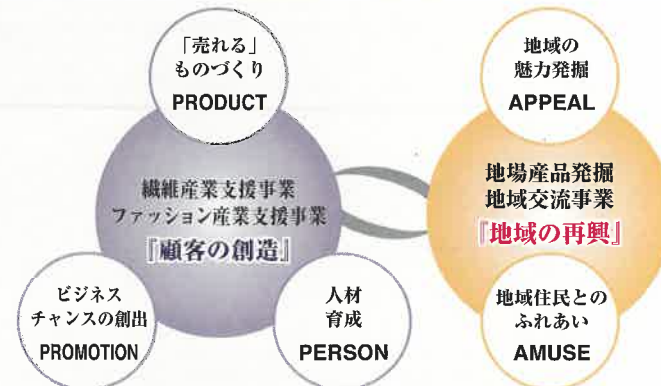
仕上・加工

●毛織物は、仕上げが複雑で、仕上・加工によって外観や風合いに特徴を出すことができる。



▼染色整理工場

わが国の繊維産業は、消費者のライフスタイルの多様化、ニーズの変化や海外製品の急増などにより、大変厳しい環境が続いています。このため、一宮地場産業ファッションデザインセンター(以下FDC)では、『顧客の創造』を主題として、PRODUCT(新商品開発)事業、PERSON(人材育成)事業、PROMOTION(販路開拓)事業、AMUSE(地域交流)事業、APPEAL(地場産品発掘)事業の3P2A事業を展開しています。



PROMOTION ビジネスチャンスを創り出す

ビジネスチャンス創出のため、さまざまな「プロモーション事業」に取り組んでいます。世界に誇る尾州織物の美しさ、品質の高さを、また、尾州地域の優れた企業、製品、サービスを国内にとどまらず、海外の多くの方に知ってもらうため、情報発信に努めています。



尾州産地アピールキャンペーン



消費者に伝わりにくい尾州の生地を目に向けてもらうため、尾州産地の尾の文字と毛織物の毛をモチーフにしてデザインした「尾」マークを商標登録し、様々な場面で活用することで、産地を広くアピールし、尾州産地のイメージアップを図っています。

Bishu Material Exhibition の開催



FDCでは、ファッションビジネスの中心地である東京で、毎年2回展示会を開催しています。

この展示会は、一宮市を中心とした尾州産地の企業が付加価値の高い魅力的なもののづくりを広く発信し、販路開拓に結びつける機会としています。

会場中央のインデックスコーナーでは、ネリーロディ社のトレンド情報を基に開発したテキスタイル・ガーメントを展示することで、アパレル企業等にメイドイン尾州のものづくりを直接アピールしています。

ミラノウニカへの出展



イタリア・ミラノ市で年2回開催される生地の見本市である Milano Unica(ミラノウニカ)に参加企業を募り団体出展し、ヨーロッパを中心としたラグジュアリーブランドなどへの販路開拓を目指しています。



PRODUCT 美しさを創り、時代に応えるものづくり

素材を変えながら発展した尾州産地は、高い技術の蓄積と同一地域内に構築された一貫生産体制という大きな強みを生かし、毛織物を生産してきました。長年培われてきた優れた技術は、新しい繊維製品にも生かされ、付加価値の高い製品づくりを可能にしています。価値の多様化に応え、「売れる」ものづくりのため、新商品開発への様々な挑戦が行われています。

FDCでは、商品開発・技術開発・研究に取り組み、新規性、独創性、時代性に優れたものづくりを進めています。

ジャパン・テキスタイル・コンテスト(JTC)



地域が一体となって次代のテキスタイル産業を担う人材の発掘・育成を図るとともに、ビジネスチャンスの拡大を目指し、毎年開催しています。グランプリをはじめとした

受賞作品をビジネス・一般を問わず多くの方々にご覧頂く機会を提供しています。



ジャパン・ヤーン・フェア&総合展「THE 尾州」



新商品の開発で重要な要素となる「糸」。ジャパン・ヤーン・フェアは日本唯一の糸の展示会であり、糸・織物業者にとって情報交換やビジネスマッチングの場となっています。平成24年からジャパン・ヤーン・フェアと併催し、翔工房作品展、JTC優秀作品展などのFDC事業を紹介する総合展「THE 尾州」を開催しています。

アと併催し、翔工房作品展、JTC優秀作品展などのFDC事業を紹介する総合展「THE 尾州」を開催しています。

PERSON ものづくりは、人づくりから

ファッションビジネスは、個人の力量が業績に直結することが多く、尾州産地において、企業、業界の活力は「人材」に帰結すると言えます。FDCではこうした意味から「パーソン事業」に力を注いでいます。



翔工房



ファッション業界の各方面での活躍が期待される学生を対象とした人材育成事業を行っています。匠と呼ばれる熟練技術者のマンツーマン指導により、アイデアを基に、糸から生地の完成までを体験することで、企画力を早い段階から醸成することを目的としています。

尾州インパナ塾



産業界と大学が連携し、企業の中核を担う人材を育成する取り組みを行っています。産地に受け継がれる高度な製造技術などを生かしながら、素材の複合化技術などにより、他にはない高い付加価値をもった製品を企画し、それを効率的に製造することができ、アパレル等に的確に提案できる人材を育成します。

各種セミナー



FDCでは、第一線で活躍する国内外の講師を招き、「ファッショントレンドセミナー」、「マーケットセミナー」など各セミナーを随時開催し、変化の大きいファッション市場にすばやく対応できる人材育成を行っています。また、尾州産地の高度な技術をベースとした、織物、染色加工、アパレル、インテリアなどに関する「技術セミナー」を開催しています。さらに、尾州産地の企業に就職した新入社員の方など、将来、ファッション業界を担う若い世代に向けて、織物の基本情報を丁寧に解説する「新規採用者向けセミナー」や学生向けの「産地研修会」も開催しています。

一宮市は、日本有数の大河である清流・木曽川と温和な気候に育まれた濃尾平野の中央に位置し、江戸時代には東海道と中山道を結ぶ美濃路の宿場町として栄えました。豊かな自然に恵まれ、歴史的な文化や産業を生かした一宮七夕まつりや、伝統ある濃尾大花火などの祭やイベントが数多く開催されています。

観光 Sightseeing

絢爛豪華 日本三大七夕まつり

おりもの感謝祭一宮七夕まつり

開催日：7月最終日曜日をフィナーレとする4日間



一宮市民の守り神として崇敬される真清田神社の祭神天火明命の母神、萬幡豊秋津師比売命は太古から、織物の神として知られ、そのご加護によって、当地方の織物業が発達したといわれることから、毎年7月の最終日曜日をフィナーレとする木曜日からの4日間、織物と縁の深い牽牛、織女に因み全市をあげて『おりもの感謝祭一宮七夕まつり』が繰り広げられます。

昭和31年に始まった一宮七夕まつりは、今では市民の夏の最大イベントとして根をおろし、その飾り付けのけんらん豪華さから仙台・平塚の七夕まつりと並び、日本の三大七夕まつりの一つと称賛される程で、会期中は、100万を超える人で賑わいます。イベントのなかでも見物は、延々300mにもおよぶ「御衣奉獻大行列」で、他にも「民謡パレード」、「盆踊り大会」、「ワッショイいちのみや」など多彩な行事が行われます。



●御衣奉獻大行列



●盆踊り大会

尾張随一 夜空を彩る迫力の2尺玉

濃尾大花火

開催日：8月14日

毎年8月14日に岐阜県羽島市との共催で開催される花火大会で、木曽川に浮かぶまきわら船が幻想的な彩りを添える中、尾張地方随一の大きさの2尺玉は大迫力です。

濃尾大花火の歴史は古く、明治25年旧暦7月15日、起渡船場で万灯流しが行われ、仕掛花火や打上げ花火が催された起川祭が始まりでした。その川祭を催したのは起の渡船場で水運の仕事に携わる31名の若衆たちで、この組織を起明組と称し、その後、半世紀にわたって祭の運営に当たりました。

平成5年からは木曽川を挟む兩岸の尾西市（現一宮市）と羽島市の共催によって運営され、花火大会もそれまでの規模を越える大きなものに発展しました。



尾張國一之宮

真清田神社

一宮市真清田1丁目



真清田(ますみだ)という社名は太古の御世、当地において木曽川の清く澄んだ水による水田地帯が形成されていたことに由来しています。祭神は伊勢の神宮におまつりされている天照大御神の御孫である天火明命で、摂社・服織神社の祭神・萬幡豊秋津師比売命は天火明命の御母神で伊勢の内宮御正宮に相殿の神としておまつりされています。また、「一宮」とは古く平安時代から既に用いられていた名称で、国司がその国に赴いたとき、一番初めに参拝するお宮を「一の宮」といい、真清田神社は尾張の国の「一の宮」として、たいへん由緒も深く、信仰も厚い神社として知られています。

華やかな花の絵や詩情あふれるヨーロッパ風景を描いた洋画家

三岸節子記念美術館

一宮市小信中島

平成10年に開館した三岸節子記念美術館は画伯の生涯にわたる作品を収集・展示しています。毛織物工場をモチーフとした建物、画伯が好んで描いたヴェネチアをイメージした水路や現存する土蔵を活かし、愛用の品々を展示するなど、在りし日の画伯を偲ぶことのできる美術館です。

■開館時間 9:00～17:00
■休館日 月曜日(休日の場合はその翌日)、祝日の翌日、12月28日～1月4日
※H28年6月14日～11月末まで休館
■観覧料 (常設展観覧料) 一般320円 高大生210円 小中生110円

一宮市のイベントカレンダー

開催日	行事名	場所	開催日	行事名	場所
3月25日～4月10日	一宮桜まつり	大江川河畔他	6月中旬	尾西あじさいまつり	御裳神社
4月3日	桃花祭	真清田神社他	旧暦8月1日	芝馬祭	白山社
4月中旬～5月上旬	鯉のぼりフェスティバル	本町商店街	9月中旬	一豊まつり	市立黒田小学校他
4月下旬	石刀祭	石刀神社	10月第3日曜日	素人ちんどん大会	萩原商店街
4月下旬	一宮つつじ祭	浅野公園	10月第4日曜日とその前日	びさいまつり	尾西庁舎周辺他
5月3日～5日	いちのみやリバーサイドフェスティバル	138タワーパーク	10月第4日曜日	甘酒祭	八幡神社
5月上旬	杜の宮市	真清田神社境内他	10月下旬	おいち祭り	本町商店街
5月第4日曜日	全国選抜チンドン祭	萩原商店街	10月下旬～翌年2月末	冬の七夕カーニバル ～一宮イルミネーション～	一宮駅周辺
6月中旬	花しょうぶ祭	萬葉公園高松分園			

一宮のシンボルタワー

138タワーパーク(国営木曽三川公園三派川地区センター)

一宮市光明寺

平成7年4月に開園の大芝生広場を配した園内には約4,000株の四季咲きのバラが植えられているバラ大花壇「ローズストリーム」、大きな屋根やクライミングウォールがある「つどいの広場」等、いろいろな施設が設けられています。なかでも木曽川の美しい流れをイメージした大小2本の双曲線アーチがそびえ立つ、高さ138メートルの展望塔「ツインアーチ138」では、高さ100メートルの展望室から、広大な濃尾平野、雄大な木曽川の流れや日本アルプスの峰々を一望することができます。





発行：平成28年3月
編集：一宮市経済部 経済振興課
〒491-8501
一宮市本町2丁目5番6号
TEL(0586)28-9131